



将来優秀な臨床医にならんとする研修医のみなさん



【地域保健研修】を受けてみませんか！

いまや、医療は病院完結型から、地域完結型へと進んでいます。
 地域の中の保健や福祉資源を今知ることが、今後、急性期医療からリハビリや在宅ケアまで、医療の地域連携を進めていくうえで重要になってきます。
 県央保健所では、1ヶ月間の研修プログラムを準備し、みなさんの参加をお待ちしております。

主な研修プログラム

<ul style="list-style-type: none"> ・保健所業務概要講義 ・医療機関立入検査 ・死亡診断書作成演習 ・健康危機管理体制の実際 ・生活環境衛生関連施設の見学 ・介護保健老人保健施設での実習 介護保健認定審査会への参加 ・医師会での研修 ・訪問看護ステーションでの実習 ・集団給食施設の監視指導に同行 ・長崎県環境保健研究センターでの実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害児の療育相談、支援体制事業に参加 ・乳幼児健診に参加 ・妊産婦、高齢者疑似体験 ・長崎県こども医療福祉センターでの実習 ・地域関係機関とのケース連携会議に参加 ・ひきこもり対策事業に参加 ・障害者社会復帰施設での実習 ・結核対策事業（結核専門部会、DOTS カワルソ） ・AIDS 相談の実際 ・家庭訪問（未熟児・結核・感染症・精神障害者等） ・課題研究（自由テーマ）
--	---



～他にも研修医のみなさんからの事前アンケートの希望を取り入れたプログラム構成とします～

指導医のご紹介

所長：向原 茂明
 長年臨床の現場で研修医の教育に携わり、現在は臨床研修指導医養成講習会講師として全国で活躍中。

医師：宗 陽子
 臨床医から公衆衛生医師に転進した新進気鋭の医師。指導医の資格も取り、指導に燃えている。

医師：長谷川 麻衣子
 臨床から熱帯医学へ進み、ベトナムの農村で蚊を採取して博士号をとった後、行政に就職。感染症対策に燃えている。

受講された研修医の声

施設見学や事業への参加により、退院後のことについてより具体的に想像できる様になり、医療以外の面で何が必要なのかを考えられるようになった。

急性期病院で働いていると、自分の病院で医療が完結してしまうと思いがちだが、この研修を通して、これからはもっと様々な職種の人と協力して、地域の健康増進を行っていかねばならないと感じた。



健康問題を Mass でとらえる視点は、普段の診療では得がたい体験だった。

今回、保健所研修がなければ恐らく一度も経験する事がなかった研修もあり、私達がこれから担う医療の場を用いて地域に貢献していく機会が実に多くあるという事がわかった。

連絡先：長崎県県央保健所 企画調整課
 TEL (0957) 26-3304